

「これぞAM活用術 - 3Dプリンタ, 新たな一步の可能性 -」

開催期日：2019年 6月 28日(金)

申込締切：2019年 6月 21日(金)

AM (アディティブ・マニュファクチャリング) 関連技術の進歩はめざましく、2013年のオバマ大統領演説から始まった3Dプリンタブームを境にメディアにおいても注目されてきました。一方で、「3Dプリンタを導入したが使いこなせていない」、「導入を検討しているが課題解決に役立つのかわからない」、「実用品や量産品として製造・販売は実現できるのか」、といった声をよく耳にします。それもそのはず、現段階でのAM技術を基にした製品の多くが受注生産品や特殊加工品であり、製造現場から具体的な事例を挙げることは難しく、「本当に使えるのか」が見えにくい状況にあります。そこで本講習会では、AM技術を先駆的に実用されている講師をお招きし、AM技術の基礎の振り返りから、原材料・AM装置の開発と最新情報、デザイン研究とプロトタイプングによる実験試作、生産現場における具体的な実用品製造への応用事例、量産化に向けた開発まで、具体的な事例を交えながら紹介・解説していただきます。

日 時：2019年6月28日(金) 10時00分～17時25分

会 場：東京大学 生産技術研究所 An棟 中セミナー室1 (An401・402) (〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1 駒場リサーチキャンパス)

* 代々木上原駅 (小田急線・東京メトロ千代田線) 下車徒歩約12分

* 駒場東大前駅 (京王井の頭線) 下車徒歩約10分

* 会場 URL: <https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/access/>

司 会：長門毅 (株式会社富士通研究所), 木村文信 (東京大学)

次 第：(予 定)

時 間	題 目	内 容	講 師
10:00~10:05	挨拶		
10:05~11:05	金属積層造形技術の可能性と課題について	電子ビーム方式の金属積層造形技術を中心に、もの作りの視点から特徴と可能性について言及する。後半は金属積層造形技術を用いた新規材料開発、製造業のデジタル化(先進製造業)と金属積層造形とのかわりについて、最近の世界的な研究開発状況を踏まえ説明する。	東北大学 金属材料研究所 教授 千葉 晶彦
11:05~11:15	休 憩		
11:15~12:10	金属積層用材料の特徴と新材料開発事例	金属積層造形では従来の素形材に代わり、粉末やワイヤーなどが原料として用いられる。本講演では造形法毎に用いられる材料の概要と求められる特性をご紹介しますと共に、積層造形のプロセスを活かす新材料の開発事例を示す。	日立金属株式会社 グローバル 技術革新センター GRIT 先端材 料開発部 主任研究員 桑原 孝介
12:10~13:10	昼 食		
13:10~14:05	3Dプリンタの最新活用事例紹介	3DプリンタがAM (Additive Manufacturing) と言われて久しいが、国内における活用は世界に比べ遅れを取っていると云わざるを得ない。3D サービスビューアの八十島プロシードが3Dプリンタを活用するための考え方や最新事例、今後の展望について紹介する。	八十島プロシード株式会社 本部テクノロジーセンター サブリーダー 井上 準士
14:05~14:15	休 憩		
14:15~15:10	3Dプリント技術を活用した新たなものづくり デジタルモールドの可能性と課題	3Dプリンタによるソリューションのひとつである射出成形・板金用プレス型を3Dプリンタで造形し、型形状を短時間で検証可能なデジタルモールドが設計・試作シーンへもたらすメリットと限界について、現場の目線から国内の事例を交えながらご紹介いたします。	有限会社スワニー 代表取締役 橋爪 良博
15:10~15:25	休 憩		
15:25~16:20	未来を開く プロトタイプング	技術がもたらす未来を描くプロトタイプングが、研究の場でも大きな役割を果たすようになりつつある。東京大学山中俊治研究室が様々な研究者と共同で製作した、一連のプロトタイプとそのデザイン思想を紹介する。	東京大学 大学院情報学環 東京大学 生産技術研究所 教授 山中 俊治
16:20~16:30	休 憩		
16:30~17:25	金属材料向け Binder Jetting 技術の紹介	金属材料を対象としたAMでは、近年その生産性の高さからBinder Jetting (BJ) 技術が注目されつつある。金属BJの最新動向と株式会社リコーでの開発の取り組みを紹介する。	株式会社リコー AM事業本部 AM開発センター 新規開発グループリーダー 佐々木 隆文
17:30~19:00	名刺交換会 交流会 (参加費無料)		

主催：公益社団法人 精密工学会 企画：事業部企画第1グループ

協賛 (予定)：SME 日本支部/応用物理学会/大田区産業振興協会/型技術協会/軽金属学会/計測自動制御学会/コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) /品川区/自動車技術会/首都圏産業活性化協会/情報処理学会/TAMA-TLO/電気加工学会/電気通信協会/電子情報通信学会/日本オプトメカトロニクス協会/日本金型工業会/日本機械学会/日本工学会/日本工作機械工業会/日本 3D プリンティング産業技術協会/日本設計工学会/日本塑性加工学会/日本ソフトウェア科学会 /日本鋳造工学会/日本デザイン学会/日本溶接協会/日本臨床歯科 CADCAM 学会/日本ロボット学会/

協賛団体にご所属の方は会員価格にてご参加いただけます。

定 員：60名 (先着順で定員になり次第締切ります)

参加費：会 員 (賛助会員および協賛団体会員を含む) 22,000円, 学生会員 2,000円, 非会員 36,000円, 学生非会員 7,000円

【会員・学生会員・非会員・学生非会員とも講習会テキスト代含む】*参加費・講習会テキスト代とも消費税を含みます。

賛助会員参加無料券をお持ちの方は是非ご利用下さい。

資 料：講習会テキストのみ、または聴講者で2冊以上ご希望の場合、1冊5,000円

申込方法：ホームページ (https://www2.jspe.or.jp/form/koshukai/koshukai_form.html) からお申込み下さい。

申 込 先：公益社団法人 精密工学会 (〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-5-9 九段誠和ビル 2F, 電話 03-5226-5191)

お申込みフォーム↓

